

学 園 だ よ り

# 太 白 山

(平成29年8月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

## 「平成29年度宮城県さわらび学園児童自立支援方針」

園長 杉山 謙治

今年度4月から第二十六代園長になりました杉山です。着任のご挨拶が遅れましたことをお詫び申し上げます。さて、さわらび学園では、昨年の暮れに児童からの相談で職員の見解と捉えられるおそれのある事案が発生しました。本件につきまして、県庁に被措置児童等虐待通告を行い再発防止に向けた取り組みの指導を受け鋭意改善を図っているところでございます。改めて、入所児童と保護者の皆様、児童相談所等の関係機関の皆様にご迷惑とご心配をお掛けしましたことを重ねてお詫び申し上げます。

さて、本年度の自立支援方針は、これらの指導に基づき①児童の権利擁護②集団生活の安定性を土台とした個別支援の充実③職員の専門性の向上④関係機関との連携強化の5つを重点項目に定めました。特に、①児童の権利擁護では、職員の意識強化を目的に弁護士、心理司による「人権・虐待防止研修」、「施設内虐待防止アンケート」の実施、毎月の職員会議で「さわらび学園倫理綱領」の

読み合わせなどを実施しております。また、入所児童の自立支援では、一人ひとりの持ち味（個性や性格）に応じた個別支援の充実を図るために職員の専門性の向上、関係機関との連携強化に努めております。とは言え、児童の自立支援にはご家族の皆様との協力無しには前に進みません。お子さんの頑張りや成長を積極的にお伝えし、一緒に考えて行きたいと思っておりますので協力をお願いいたします。

### 「分教室で大切なこと」

分教室教頭 白石 和也

先日、児童相談所にランドセルをプレゼントした方が当時の心境を語るためにテレビに出演していた。その方は自分のことをタイガーマスク（伊達直人）と称しプレゼントをしていた。当時は話題性もあり、第二、第三の伊達直人さんが出現し「タイガーマスク運動」と呼ばれ匿名の方のプレゼントが続いた。その方が伊達直人の名を使った理由として、児童養護施設の実態を社会が知って欲しいという願いから話題性のある名前を使ったらしい。

分教室の仕事の一つに「さわらび学

園」「旗立分教室」を社会に認識してもらい、さわらび学園はこんなに素晴らしいところで、また、原籍の学校の先生方にも分教室の子供達はこんなに頑張っているということを知らせることがある。多分、伊達直人さんも児童養護施設の実態を世間に知らせたいという思いは私達と同じなのだと感じた。

私は分教室に関わって8年が過ぎようとしている。その中で学園も分教室も変わってきている。本当に子供達の自立には何が必要か、そして多くの大人が真剣に子供達の将来を話合っている。しかし、世間の誤解から子供達が不利益を被ってしまう場合が多々ある。その度に「学園の子供達は本当に頑張っている。」「もっと原籍校が生徒に関わらなくてはいけない。」と思いつながら自分達の無力感を感じるのである。だから、私達は機会があるごとに学園や分教室はどのような施設か説明している。「学園は良いところですよ」と。

テレビで伊達直人さんが言っていた言葉に「子どもたちは涙を流すために生まれてきたんじゃない。周りの人を笑顔にするために生まれてきた。この思いを胸にこれからも活動を続け

ていきたい。」とあった。私たちも子供達が笑顔になるようにあきらめず、全力で応援をしていきたい。

## 第68回全日本少年野球

### 東北北海道地区秋田大会

#### 地区大会概要・結果

〈概要〉

月日 … 6月28日～30日

場所 … 第一会場 秋田県営野球場

第二会場 河辺戸島野球場

○一回戦

さわらび 11 — 1 みらい

○準決勝

さわらび 11 — 1 福島

○決勝

さわらび 6 — 28 千秋

〈結果〉 準優勝

#### 監督談話

野球部監督 鹿内 雄基

今年の4月から監督としてチームを指揮することになりました。4月当初のチーム状況としては、声出しや練習に一生懸命取り組もうとする児童が多くいる一方、些細なことがきっかけでトラブルが起きたり、雰囲気が悪くなるなど、ポテンシャルはあるのに不確定要素が多く、チームとしてまと

まっていけるのか不透明な状況にありました。

しかし、子ども達は成長しました。分教室での授業態度、周りに流されない集中力、自分に向き合おうとする姿勢など、生活から意識が変わっていき、それが野球活動にも繋がっていききました。見事「生活野球」を体現してくれたのだと思います。これも、日々子ども達と接し指導してくださる学園職員や分教職員の方々、子どものために練習試合を行ってくれた児童相談所や有志のボランティアの方々、子ども達を応援してくれたご家族の方々など、多くのご協力があつて実現した事だと思えます。本当にありがとうございます。

地区大会は優勝まで「あと一歩」が届きませんでした。その「一歩」をどこまで突き詰められるのか、それが今後のテーマとなっています。これからも全国大会に向けて子ども達と頑張つて行きたいと思えますので、今後とも応援よろしくお願いします。

#### 地区大会準優勝を振り返って

野球部主将 児童 H

地区大会に行つての感想、思ったことがいくつかあります。

一つ目は、他のチームの挨拶返事です。自分たちのチームは、歩きながら挨拶したり、全員で返事をしないことがあつたけど他のチームは止まって挨拶したり、全員で返事をしていたのでこれからそこを意識して生活したいです。

二つ目は、諦めないことが大切だと思ひました。千秋学園との決勝戦、最終回まで6対2で負けていたけど、誰も諦めず声を出し、一生懸命やつて6対6まで追いつけたから、諦めないことが大切だと思ひました。

三つ目は、全国大会を全力で頑張ることです。自分たちは、東北北海道の代表として行くので、恥ずかしい思いは出来ないし、地区大会で悔しい思いをしたので、次はそのような思いをしないよう全力で頑張りたいです。

#### 太写真真鑑



## 仙台市中総体

### 大会概要・結果

太白区 女子バドミントン競技

日程 6月10日(土)～12日(月)

場所 仙台市青葉体育館

結果 女子 個人シングルス

すみれ寮 児童 C

(一回戦) 対 八木山中

2 — 1 勝利

(二回戦) 対 袋原中

0 — 2 敗退

すみれ寮 児童 M

(一回戦) 対 山田中

0 — 2 敗退 2

#### 監督談話

バドミントン部監督 土井教諭

大会前日までの練習では、気持ちがあ安定せず、しっかりと練習に打ち込めないことも多くありました。バドミントンが上手くなりたいという気持ちと、練習に集中しきれない葛藤の中で、毎日が過ぎていったように感じます。そんな中、人来田中本校の練習に参加したことで、刺激を受け、徐々に意識の高めることができました。

迎えた中総体当日、緊張した面持ちで試合に臨んだMさんは持ち前のフットワークを生かし、厳しいコースの

シャツルを拾うなど、粘り強く試合を運びました。アドバイスもよく聞き、ゲームを主導する場面が見られるなど、短い練習期間ながら、非常によく頑張りました。同じく緊張した面持ちのCさんは、冷静にゲームを組み立てるまでに時間がかかり、一セット目を落としましたものの、2セット目からは強気に責める場面が見られ、見事に勝利を収めました。二回戦は敗れたものの、これまでの練習の成果を感じられる試合内容でした。

試合後、二人からは応援して下さいた方々への感謝の気持ち語られるなど、成長した姿を見ることができ、良い経験となる大会を過ごすことができました。

### 中総体を振り返って

すみれ寮 児童 T

私は、6月11日に青葉体育館でバドミントンのシングルスで出場しました。私はここに来て約9ヶ月間練習をしてきました。その中でFASカップには出場できず、太白カップというのに出場しましたが、一勝も出来ずに終わってしまいました。そこで私は中総体では一勝はしたいと思い頑張っ

て練習し、先生方には本校練習に何度か連れて行ってもらいました。本校での練習は私達がやっているメニュー以上にハードでした。その中、私も本校の皆さんと一緒に練習させてもらいました。

中総体では一勝する。そう思いながらバドミントンの練習をし、中総体当日も朝練をしてから会場に行きました。私は一試合目に対戦した学校は太白カップでも当たった八木山中学校でした。1セットは10対15で負け、このままではダメだと監督である土井先生にアドバイスをいただきながら、2セットは15対7で勝つことが出来、3セットは15対12で一試合目は勝つことが出来ました。二試合目は袋原中学校とでした。1セットは6対15で負け、2セットは8対15で、勝つことは出来ませんでした。

当日、応援に来て下さった学園の先生方をはじめ、分教室の先生方、去年までいた先生方、今まで応援してくださった皆様に本当に感謝しています。本当にありがとうございます。これから行われるFASカップに向けて頑張りたいと思います。

### 太白写真館（中総体&野外活動）



### 学園行事「野外活動」

#### 「野外宿泊訓練」

広瀬寮 日下 善貴

8月2日から3日にかけて、国立花山青少年自然の家へ野外活動に行ってきました。数少ない学園全体での宿泊行事です。プロジェクトアドベンチャー、館内追跡ゲーム、沢登りが大きな活動です。今年の大きなテーマは「協力」でした。プロジェクトアドベンチャーや館内追跡ゲームでは、普段と違い。大人の介入なしで子どもたちだけで課題に取り組みました。いつも通り奔放な児童、奔放な児童を見てイライラする児童、雰囲気をよくするために周りに声をかける児童、全体をまとめようと努力する児童、いつも以上に個性が見えましたが要所では協力が出来ていたと思います。二日目の沢登りがメインイベントです。天候が悪く、例年は暑さに苦しみますが、今年は寒さとの戦いでした。水温の冷たさや水の流れの強さ、魚やイモリ、サンショウウオといった生き物との触れ合い、思った時にトイレに行けないこと、一つひとつが普段の学園生活では味わえない自然体験でした。怪我や事故がなかったことは幸いでしたが、マナー部分では課題が見えました。日々の学

園生活で考えていきたいと思えます。

## 野外活動に行つて

すみれ寮 児童 K

8月3日～4日の一泊二日で、花山の野外活動に行きました。

私は最初、野外活動の話聞いて、沢活動でヘビなどに遭遇するのではないかと不安がありました。

当日、天候に問題は無く、花山に近づくにつれて天気は良くなってきました。プロジェクトアドベンチャーと館内追跡ゲームをしました。私は、館内追跡ゲームで、皆で協力して問題を解いていくのが楽しかったです。

二日目の沢活動では、天気は曇りで水は少し冷たかったです。3時間かけて沢を歩く途中、泳いだり、滝から飛び込むポイントもありました。私は怖くて滝から飛び込むことが出来ませんでした。男子児童は何人が飛び込んでいました。心配していたヘビには遭遇してしまいましたが、大丈夫でした。

野外活動を通じて、皆で協力することの大切さを、より学ぶことが出来ました。

## 双方向の関係性を目指して

指導班長 田中 佳二

私たち職員が願うこと。それは。子ども達が自分に自信を持ち、これからの将来に希望を持って生きていこうと思う前向きな力を身につけることです。そのために必要なことのひとつに、職員（大人）と子ども達との「双方向の関係性」があります。

学園生活の中で、職員と子ども達がどれだけ良質な関係を築くことができるか、子ども達がどれだけ「見守られている感」を実感できるかが大事だと考え、その関係作りに取り組んでいます。関係作りを進める上で不可欠なことは「職員のチームワーク」です。職員同士がつながっていることを感じた子ども達には自然に安心感が生まれます。その安心感こそが子ども達の中にゆとりを生み、自分達から気持ち発信していくことにつながると思います。「自分の話を聞いてほしい」と心が動き、それを職員も一生懸命に受け止める、そういった雰囲気醸成していくことが、結果、職員から伝えたいことを子ども達がちゃんと受け止めてくれることにつながっていく。そういう「双方向の関係性」を目指して、日々努力していきたいと思えます。

## 家族支援担当職員より

家族支援担当 浅野 麻未

今年度より家族支援担当となりました浅野と申します。私は広瀬寮で3年間寮職員として子どもたちの生活指導にあたってきました。不慣れなことも多いかもしれませんが、どうぞよろしく願います。

家族支援担当の業務は主に2つあります。まず1つ目は、入所している子ども達のご家族や関係機関に向けたものです。例えば、面会ではお子さんたちの学園生活の様子や頑張っていることをお伝えしています。

2つ目は、退園した子どもたちへのアフターケアです。退園してからも地域で安定した生活が送れるように、何か困ったことがあれば相談できる場として支援にあたっています。

学園はどんなところなのか、普段何をしているのか等々質問あればお気軽に連絡ください。また、お子さんとの関係性はもちろんあると思います。毎月の面会等来ていただけます。お子さんの励みにもなります。限られた時間となってしまうますが、ぜひお越し下さい。

## 学園の今後の予定

- 8 / 11 ~ 17 帰省期間 (学)
- 8 / 28 ~ 30 野球全国大会 (学)
- 9 / 13 ~ 15 修学旅行 (分)
- 9 / 22 F A S カップ (学)
- 10 / 6 ~ 11 一時帰省 (学)
- 10 / 7 ~ 8 新人戦 (分)
- 9 / 27 稲刈り (分)
- 10 / 27 学園祭 (学・分)

※ (分) 分教室行事・(学) 学園行事

## 編集後記

今年度は、中総体のバドミントンで一勝、野球では全国大会へ出場を決めました。学園のスポーツ活動は、支援の重要な柱の一つになっています。

東北楽天イーグルス様・ベガルタ仙台様から招待をいただく試合観戦は、児童の大きな楽しみになっています。ロスタイムに同点に持ち込んだベガルタ仙台試合を観戦した児童の日記に、「勝てはしなかったが最後まであきらめず頑張ることで、少しでも良い結果を得られることを学びました」といった内容が記入されていました。児童は、スポーツや学園生活から多くのことを学び、成長しています。その喜びを太白山を通じ、保護者の皆様等にお伝えしたいと思えます。